

Bangladesh の農村から「地域開発」を考える

2008年6月4日

海田能宏

kaidayoshi@kyoto.zaq.ne.jp

1. Bangladesh 起源の「世界標準」

- ◇ Yunus の農村女性へのマイクロ・クレジット
- ◇ Akhter Hamid Khan のコミラモデル（農村開発）
- ◇ 国際援助の実験場
- ◇ NGO / INGO の活躍

2. それで農村は豊かになったか？

3. 何か欠けているのか？

- ◇ 村落は、8万のケシつぶを床に撒いたように、階層性を持たず、バラバラだ
- ◇ 村落と地方行政がつながっていない
- ◇ 「リンクモデル」ができたわけ（後述）

4. Bangladesh という国の成り立ち

- ◇ ムガル帝国の東の核心域
- ◇ 英領インド帝国の核心域 ベンガル州（東ベンガル州）（1767-1947）
 - ◇ 典型的な植民地統治が行われた
- ◇ インド分割の結果、イスラーム国家パキスタン（東西パキスタン）誕生（1947）
- ◇ 西パの東パ搾取、ベンガル言語運動を経て Bangladesh 独立（1971）
- ◇ ひとつの州（の半分）が国に： 統治能力の低さ、加えて絶えぬ政争
- ◇ INGO / NGO による戦災及び洪水災害復興
- ◇ 英領時代の統治スタイルを引き継ぐ（徴税と治安維持と飢餓対策）
- ◇ 行政サービスの欠如
- ◇ 「村落」という独立小宇宙の自治： 使えるのはこれだけだ

5. リンクモデル（1986 以来ほぼ継続して研究）

スライド参照

- ◇ 村落と外世界をつなぐ。第一歩として村落自治と地方行政をつなぐ
- ◇ 村役場・町役場をつくる「実験」

6. 農村の発展

- ◇ Basic Human Needs は政治・行政努力で充足させることはできる
- ◇ MDG や PRSP はそうした具体的な目標を掲げている
- ◇ しかし、農村の経済発展（農村の貧困解消）は、国全体の経済発展次第
農村は、農村だけでは発展できない
全体経済発展のトリクルダウン効果を期待する
しかし、現実には都一鄙格差の拡大と首位都市一極集中

7. 「国全体」の発展とは何か？

- ◇ 経済発展が著しいインドの民衆は幸せか？
- ◇ 途上国世界の趨勢： 一国ひとつの首位都市だけが伸びる
- ◇ 日本の地方都市の衰退を放置できるか
- ◇ 「地方」の発展なくしていい国は生まれない。幸いにアジアはムラ住みの伝統を持っている
 - 地域開発の発想 1： 一村一品運動
 - 地域開発の発想 2： デサ・コタ理論、中国の小城鎮建設、インドの
rural-urban continuum
 - 地域開発の発想 3： 封建制（江戸時代）の知恵